



ゲストハウス「酒宿山田屋」の宿泊は一日1組限定。キッチンと海が見える風呂付き。素泊まり（平日2人以上利用で1人4千円）のみで、食事は出前OK。ペア宿泊券を1組にプレゼントします。年末年始と大型連休、夏休み期間を除き、週末も可。事前予約（☎046・881・3341）を。件名「訪ねる・三崎港」で名前、住所、電話番号、記事の感想を記入してメール（yukan-toukou@asahi.com）でご応募ください。22日（水）必着。当選者にのみ、連絡いたします。

# Tokyo Evening

2017年（平成29年）

11月16日

木曜日 夕刊

朝日新聞東京本社  
〒104-8011 東京都中央区築地 5-3-2  
電話 03-3545-0131 www.asahi.com



上げだった。毎日どこかで出港前の宴会があり、夜の町もにぎやかでした」



山田屋酒店。山田直春さん（右）は1階で店番。倉橋隆行さん（中）が若いスタッフと2階のゲストハウスを運営



城ヶ島西側の磯を法木幸久さんと歩く。断層や、地層が柔らかいうちに揺すられてできた「火災構造」などがくっきり

昭和の繁栄を忘れたように静かだった町に最近、動きがある。まぐろきつぷで来た人が再訪したくなる町へ」。

その象徴が三崎港バス停向かいの山田屋酒店。カメラを向ける人も多い明治期の建物は2年前、ゲストハウス「酒宿山田屋」に生まれ変わった。

仕掛けたのは不動産業を営む倉橋隆行さん（59）。「マグロ以外にも魚種豊富で、東京から近い。三崎の可能性は高い」と横浜から移り住んだ。

山田直春さん（81）が経営難で酒屋をたたむと聞き、「惜し

昭和の繁栄を忘れたように静かだった町に最近、動きがある。まぐろきつぷで来た人が再訪したくなる町へ」。

その象徴が三崎港バス停向かいの山田屋酒店。カメラを向ける人も多い明治期の建物は2年前、ゲストハウス「酒宿山田屋」に生まれ変わった。

仕掛けたのは不動産業を営む倉橋隆行さん（59）。「マグロ以外にも魚種豊富で、東京から近い。三崎の可能性は高い」と横浜から移り住んだ。

山田直春さん（81）が経営難で酒屋をたたむと聞き、「惜し

昭和の繁栄を忘れたように静かだった町に最近、動きがある。まぐろきつぷで来た人が再訪したくなる町へ」。

その象徴が三崎港バス停向かいの山田屋酒店。カメラを向ける人も多い明治期の建物は2年前、ゲストハウス「酒宿山田屋」に生まれ変わった。

山田直春さん（81）が経営難で酒屋をたたむと聞き、「惜し

昭和の繁栄を忘れたように静かだった町に最近、動きがある。まぐろきつぷで来た人が再訪したくなる町へ」。

その象徴が三崎港バス停向かいの山田屋酒店。カメラを向ける人も多い明治期の建物は2年前、ゲストハウス「酒宿山田屋」に生まれ変わった。

山田直春さん（81）が経営難で酒屋をたたむと聞き、「惜し

昭和の繁栄を忘れたように静かだった町に最近、動きがある。まぐろきつぷで来た人が再訪したくなる町へ」。

その象徴が三崎港バス停向かいの山田屋酒店。カメラを向ける人も多い明治期の建物は2年前、ゲストハウス「酒宿山田屋」に生まれ変わった。

山田直春さん（81）が経営難で酒屋をたたむと聞き、「惜し

昭和の繁栄を忘れたように静かだった町に最近、動きがある。まぐろきつぷで来た人が再訪したくなる町へ」。

その象徴が三崎港バス停向かいの山田屋酒店。カメラを向ける人も多い明治期の建物は2年前、ゲストハウス「酒宿山田屋」に生まれ変わった。

山田直春さん（81）が経営難で酒屋をたたむと聞き、「惜し

昭和の繁栄を忘れたように静かだった町に最近、動きがある。まぐろきつぷで来た人が再訪したくなる町へ」。

その象徴が三崎港バス停向かいの山田屋酒店。カメラを向ける人も多い明治期の建物は2年前、ゲストハウス「酒宿山田屋」に生まれ変わった。

山田直春さん（81）が経営難で酒屋をたたむと聞き、「惜し

昭和の繁栄を忘れたように静かだった町に最近、動きがある。まぐろきつぷで来た人が再訪したくなる町へ」。

その象徴が三崎港バス停向かいの山田屋酒店。カメラを向ける人も多い明治期の建物は2年前、ゲストハウス「酒宿山田屋」に生まれ変わった。

山田直春さん（81）が経営難で酒屋をたたむと聞き、「惜し

昭和の繁栄を忘れたように静かだった町に最近、動きがある。まぐろきつぷで来た人が再訪したくなる町へ」。

その象徴が三崎港バス停向かいの山田屋酒店。カメラを向ける人も多い明治期の建物は2年前、ゲストハウス「酒宿山田屋」に生まれ変わった。

山田直春さん（81）が経営難で酒屋をたたむと聞き、「惜し

昭和の繁栄を忘れたように静かだった町に最近、動きがある。まぐろきつぷで来た人が再訪したくなる町へ」。

その象徴が三崎港バス停向かいの山田屋酒店。カメラを向ける人も多い明治期の建物は2年前、ゲストハウス「酒宿山田屋」に生まれ変わった。

山田直春さん（81）が経営難で酒屋をたたむと聞き、「惜し

昭和の繁栄を忘れたように静かだった町に最近、動きがある。まぐろきつぷで来た人が再訪したくなる町へ」。

その象徴が三崎港バス停向かいの山田屋酒店。カメラを向ける人も多い明治期の建物は2年前、ゲストハウス「酒宿山田屋」に生まれ変わった。

山田直春さん（81）が経営難で酒屋をたたむと聞き、「惜し

昭和の繁栄を忘れたように静かだった町に最近、動きがある。まぐろきつぷで来た人が再訪したくなる町へ」。

その象徴が三崎港バス停向かいの山田屋酒店。カメラを向ける人も多い明治期の建物は2年前、ゲストハウス「酒宿山田屋」に生まれ変わった。

山田直春さん（81）が経営難で酒屋をたたむと聞き、「惜し

昭和の繁栄を忘れたように静かだった町に最近、動きがある。まぐろきつぷで来た人が再訪したくなる町へ」。

その象徴が三崎港バス停向かいの山田屋酒店。カメラを向ける人も多い明治期の建物は2年前、ゲストハウス「酒宿山田屋」に生まれ変わった。